

平成 23 年度神奈川県サッカー審判協会総会 及び会員懇親会 報告

平成 23 年度神奈川県サッカー審判協会定期総会が、5 月 15 日（日）午後 5 時 30 分から藤沢市民会館第 2 会議室において開催されました。

定期総会には、40 名の会員の方が出席され、先ず、開会にあたり会長の挨拶があり、その後、議事を進めました。

議題として、「平成 22 年度事業報告、決算報告、監査報告」、「役員改定（案）」、「平成 23 年度事業計画（案）、予算計画（案）」を原案のとおり可決されました。（議案詳細につきましては、後日機関紙に掲載いたします。）

平成 22 年度の反省をふまえ、地区審判員の集いの開催、機関紙グッドレフリーを計画通り発行することを再度今年度も盛り込みました。また、今年度は役員改正を行い、会長はじめとする新役員体制で平成 23・24 年度の運営をしていきます。（新役員体制および運営組織は後日ホームページで紹介させていただきます。）

23 年度の重点取り組みとして、4 級審判員の方への競技規則勉強会を行い、4 級審判員の会員数増加を目指していきます。また、事務通信費の削減のため、郵送での関連資料配布を Web ホームページや電子メール配信に代替えしていきます。新規事業として審判記録カードの物品販売提供を開始します。

今回の講話では、元国際副審山口博司さんから「2010 年日本・ポーランド サッカー審判交流プログラム」で主審 家本政明さん、副審 八木あかねさんの 3 人で体験した話をしていただきました。日本とはまったく違う審判員のクルー決定の仕方やその決定の方法から主審は副審を「My Assistant」と呼ぶと言った文化の違いがあること。また、試合では選手のフィジカルや球際の強さを感じたと説明されました。実際に審判をした試合をビデオで観ながら、各場面でのエピソードを説明されました。やはり、オフサイドを判定するのに難しい場面も数多く出てきましたが、正しく判定されており、日本の副審の能力の高さを改めて感じました。

また、主審をした**家本政明さん**も 180cm 以上の長身ですが、何かあると常に家本さんの頭の上から判定に文句をいいプレッシャーをかけてきており、それに屈しない強い精神力を持つことや審判員も選手に負けない身体的な大型化が求められていると話していました。タフでなければならぬことには、試合終了後の選手同士の衝突も事前に察知し、選手ロッカールームまでも先回りして見にいけるようにしろと運営から指示を受けたそうです。このようなことも考えておかなければならない環境の違いにも驚かれたようです。

最後にポーランドサッカーの特徴と日本のサッカーとの違いも解かり易く説明して頂きました。

定期総会終了後、「まつの間」において40名の参加により懇親会が開催され、砂川恵一新理事長の乾杯の発声で開宴され、次に慶弔規定のお祝いをいただいた中から、今年1級審判員に昇格しました榎本一慶さんより御礼の言葉と今後更なる成長の誓いの挨拶がありました。懇親会も大いに盛り上がり、最後にお楽しみ抽選会では、全員に景品を持ち帰りいただき、記念写真を取り宴を終了しました。

以上、今年度の定期総会の報告をします。

今井新会長を筆頭に、一新された神奈川県サッカー審判協会の体制の下で力を合わせ、会員の皆様のため、神奈川県サッカーの発展のために、意見を十分組み入れながら、「より大きな審判員の輪づくり」に取り組んでまいりますので、会員皆様の一層のご協力をよろしくお願い致します。

神奈川県サッカー審判協会
事務局

総会風景



森田会長挨拶



事業報告/決算、新組織紹介、事業計画/予算説明



昇格祝(間宮氏・兼井氏)



山口さんの講話

懇親会風景



